

2018年度第2四半期

 **決算説明資料**

アイペット損害保険株式会社（証券コード：7323）

2018年10月30日



# 決算ハイライト

当社は、日本の会計基準（J-GAAP）の他に、経営管理用の社内指標（Non-GAAP）にて経営成績の開示を行い、こちらをより重要な指標と考えております。詳細は APPENDIX をご参照下さい。



## 収益指標

経常収益	7,089 百万円 (前年同期比 <b>+21.4%</b> )
調整後経常利益 (Non-GAAP)	439 百万円 (前年同期比 <b>+25.8%</b> )
調整後中間純利益 (Non-GAAP)	311 百万円 (前年同期比 <b>- %</b> )

※中間純利益 (Non-GAAP) は 638 百万円 (P.3、P.16 参照)、保険業法に基づく中間純利益 (J-GAAP) は 629 百万円 (P.19 参照) となった

**保有契約件数** ..... 389,475 件 (前年度末比 **+33,962件**)

▶ 保有契約件数の純増件数は、1Q に続いて、2Q でもペット保険会社で 1 位。結果、上半期累計でもペット保険会社で第 1 位を確保\*。3Q 中には 40 万件到達見込み。

\*当社推計

## コンバインド・レシオ

正味保険料ベース	88.5% (損害率 41.3%、事業費率 47.1%)
既経過保険料ベース	94.2% (損害率 44.9%、事業費率 49.3%)

**ソルベンシー・マージン比率** ..... 391.5% (前年度末比 +106.7pt)

▶ IPO に伴う増資や税効果会計の区分変更の影響で、大幅な改善

(単位：百万円)

	FY17 2Q	FY18 2Q	前年同期比
経常収益	5,841	7,089	+21.4%
経常利益	163	213	+31.0%
中間純利益	▲217	638	—
調整後経常利益*	349	439	+25.8%
調整後中間純利益**	▲31	311	—

\* 調整後経常利益 = 経常利益 ± 異常危険準備金影響額

\*\* 調整後中間純利益 = 中間純利益 ± 異常危険準備金影響額

## (参考) FY18 2Q の中間純利益について

当年度より税効果会計の区分変更があった影響で、従来スケジューリング不能であった異常危険準備金が全額スケジューリング可能になった。その結果、前期末の異常危険準備金残高に対して489百万円、当中間繰入額に対して63百万円、合計552百万円の繰延税金資産を計上した。その分、前年同期に比べて大幅に中間純利益が増加している。

上記の影響を除くと、中間純利益は85百万円(対前年同期 +303百万円)である。



2018年度上半期のポイント

及び下半期以降の取組み

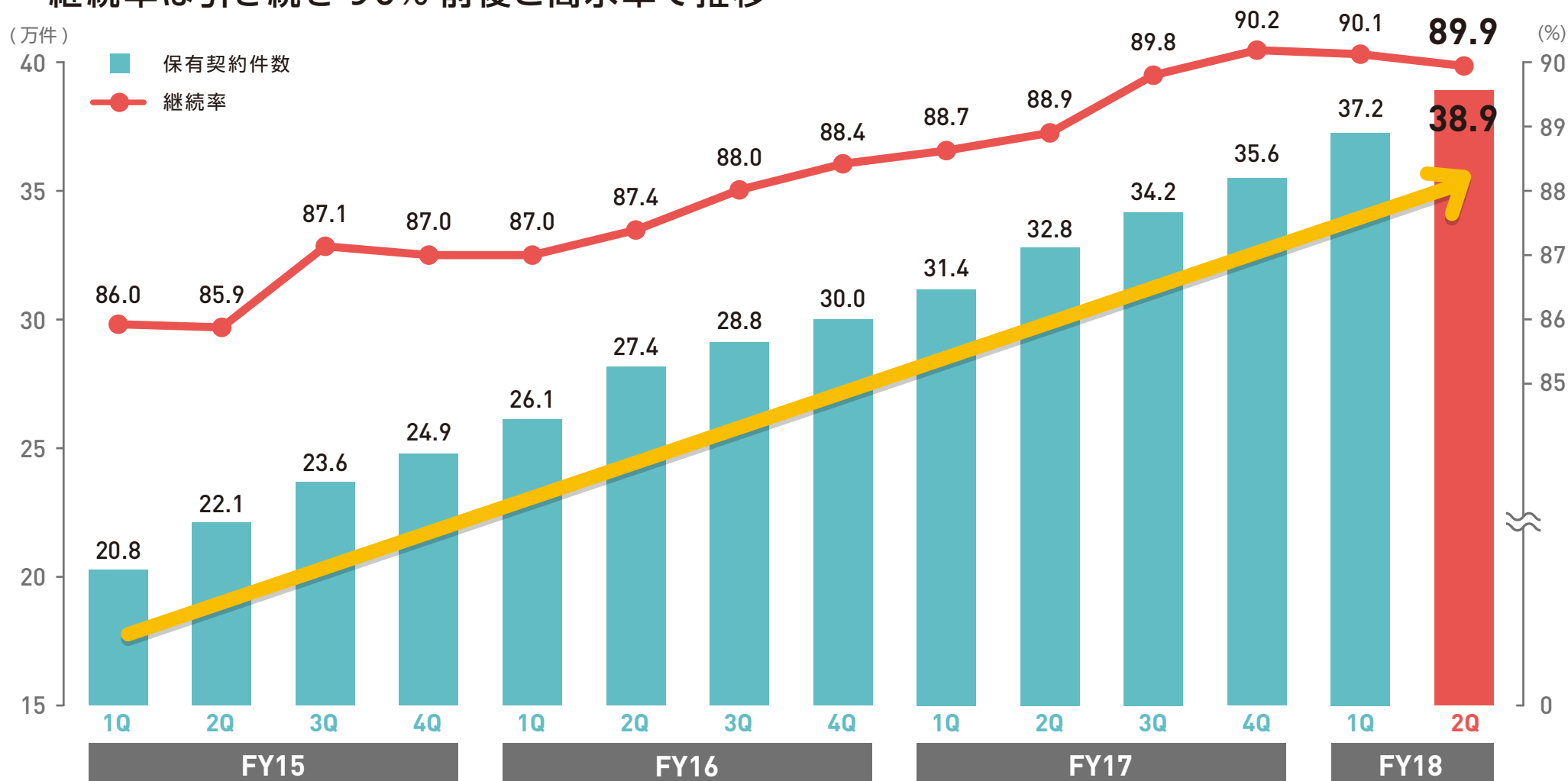


順調にペットショップチャンネルとインターネットで  
チャンネルの複線化を継続

その結果、両チャンネルともに新契約件数は  
前年から約20%増と大幅に進展

その他のチャンネルも引き続き拡大中

- 保有契約件数は順調な拡大を続け 2018 年 9 月末日で 38 万件を突破  
当四半期での純増件数は、前四半期に引き続きペット保険では業界第1位\*
- 継続率は引き続き 90% 前後と高水準で推移



\* 当社推計

- ・ 当社の保険商品が、数々の No.1 を受賞

## アイペットのペット保険は 数々の No.1 受賞



[実査委託先] 楽天リサーチ [対象商品] うちの子及びうちの子ライト [調査期間] 2015年6月、2016年4月、2017年4月、2018年3月



- ・ 2018 年 7 月より RPA の導入を開始

## 1 事務部門の従業員を中心に、自走可能な RPA 人材に育成

- ・ RPA 研修を内製化し、従業員が講師となり実施
- ・ RPA の推進と啓蒙を目的として、社内資格制度を新設し、更なる人材開発を推進

## 2 今年度中に 1,000 時間 / 月の業務をロボットに置き換える

- ・ 2018 年 9 月末時点で 400 時間強 / 月のロボット化を実現
- ・ 今後はロボットの開発と環境整備を並行して推進し、更なる業務のロボット化を目指す



ガートナー社の Cool Vendors in Business and IT Services 2017 で世界の 5 社に選ばれるなど、RPA のリーディングカンパニーとして業界を牽引する、RPA テクノロジーズ株式会社の『BizRobo!』を採用。

- 引き続き、乃木坂 46 を当社イメージキャラクターとして各種メディアに活用
- かるたやカレンダー等の参加型企画を開催し、お客さま満足度向上を促進

## 乃木坂46



## かるた・カレンダー



# うちの子キュートの対象ペットを拡大

- 幅広いお客さまのニーズに応えるため、「うちの子キュート」の対応動物に、ハリネズミ、モモンガ、トカゲなどを追加し、対象ペット数は業界最多規模\*へ
- 2018年11月1日より、ペットショップ限定商品として販売

## 既存種 (3種)



うさぎ 鳥 フェレット



## 追加種



ハリネズミ モモンガ リス プレーリードッグ ハムスター  
 デグー チンチラ ネズミ モルモット トカゲ カメレオン  
 イグアナ カメ など

- 2018年10月16日より、LINE 株式会社がサービス提供するコミュニケーションアプリ「LINE」にアイペット公式アカウントを開設

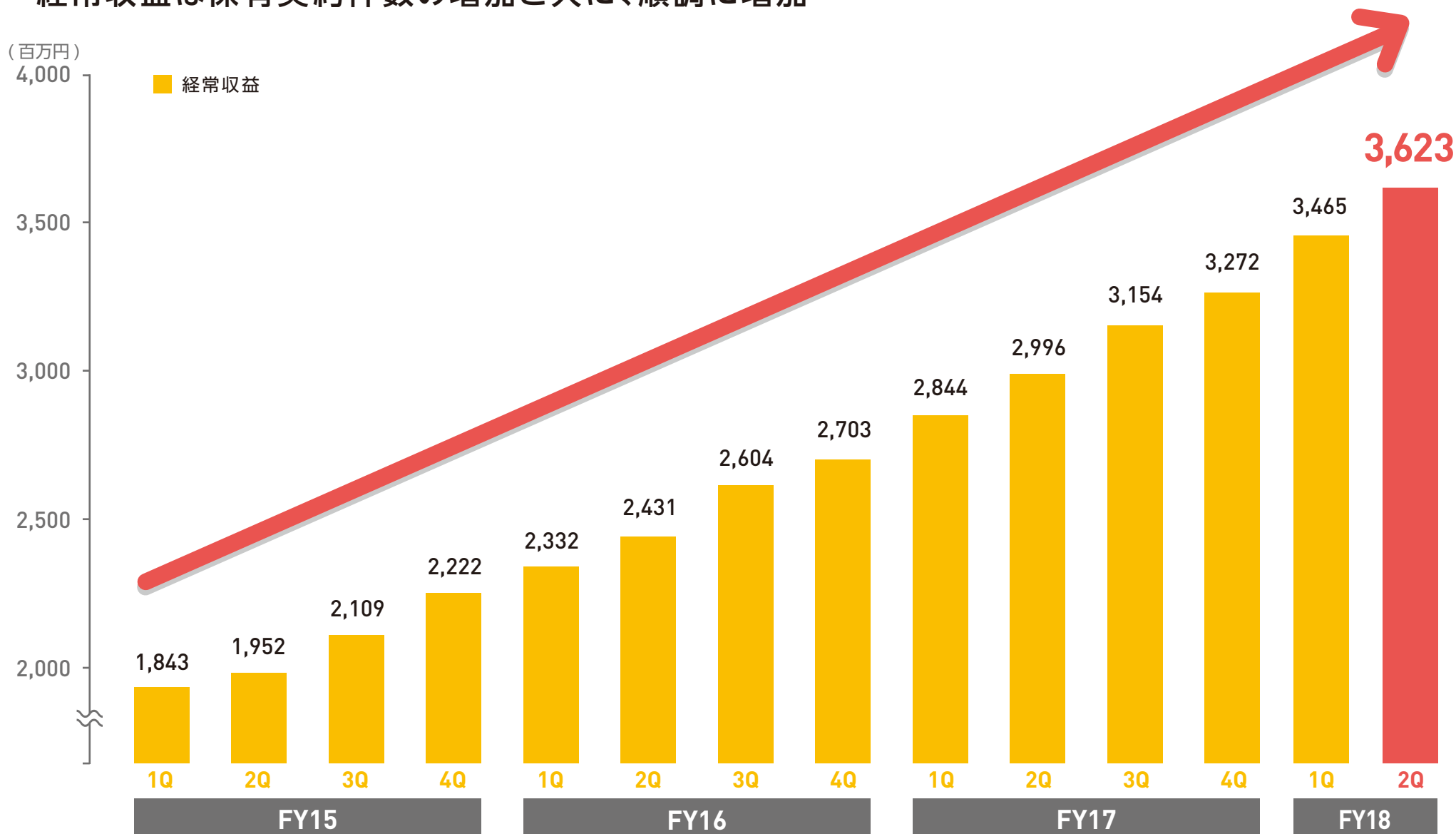


\*LINE Financial がサービスを開始した「LINE ほけん」において、ペット保険としては唯一、当社のペット保険を掲載

# 業績の推移について



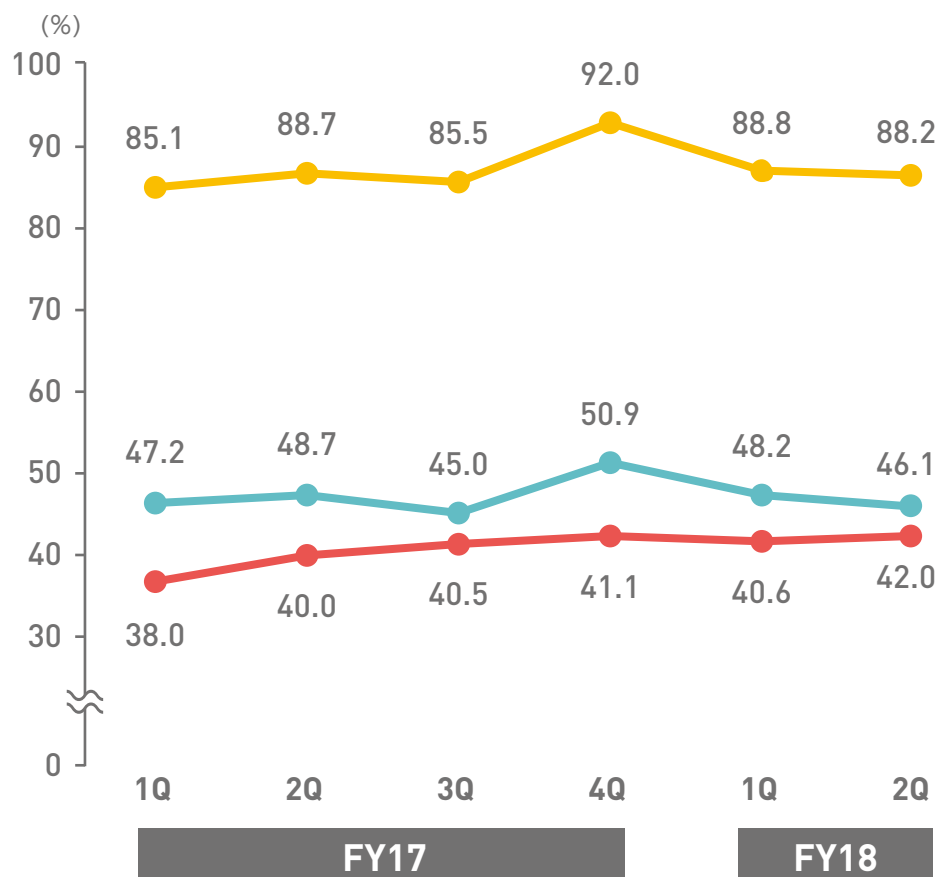
- ・ 経常収益は保有契約件数の増加と共に、順調に増加



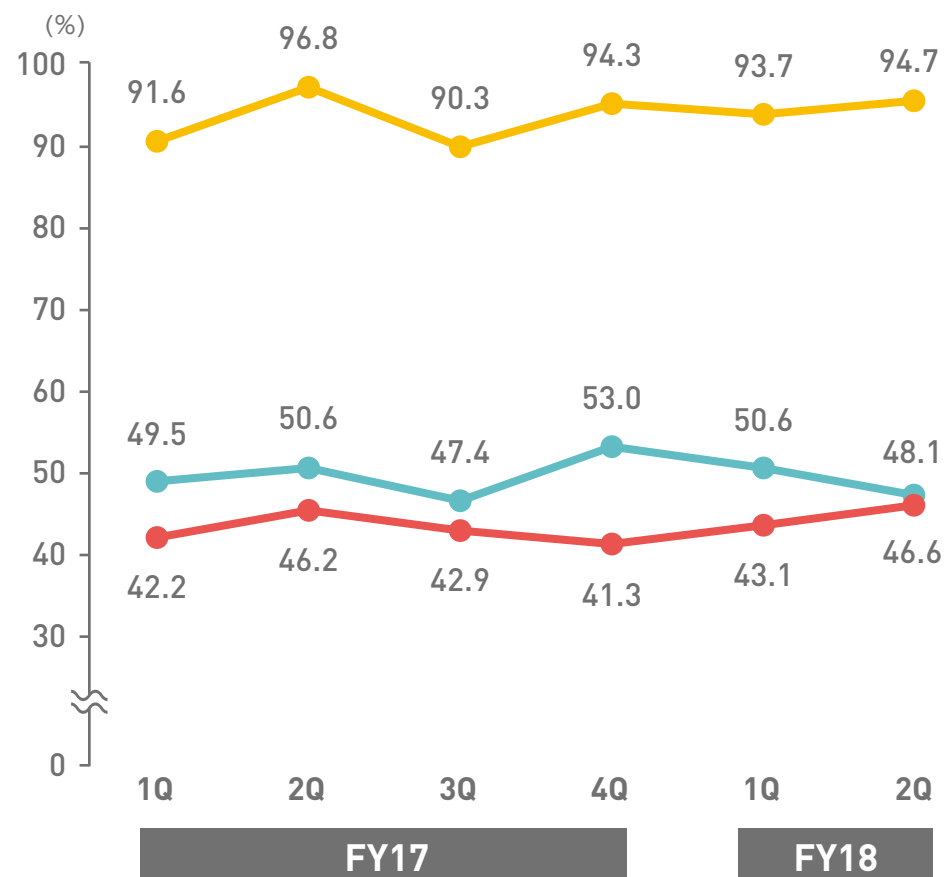
- ・ 季節変動はあるが、損害率、事業費率ともに概ね安定的に推移

● コンバインド・レシオ   
 ● 事業費率   
 ● 損害率

## 正味保険料ベース



## 既経過保険料ベース (E/I)





Non-GAAPベースの

業績





(単位: 百万円)

	FY17 2Q	FY18 2Q	前年同期比	
<b>経常収益</b>	<b>5,841</b>	<b>7,089</b>	<b>+21.4%</b>	
保険引受収益	5,804	7,036	+21.2%	保有契約件数の拡大に伴い順調に増加
資産運用収益	33	27	▲17.8%	有価証券売却益 — ▲19百万円 利息配当金収入 — +13百万円
その他経常収益	3	24	+645.2%	
<b>経常費用</b>	<b>5,677</b>	<b>6,875</b>	<b>+21.1%</b>	
保険引受費用	3,437	4,315	+25.5%	正味支払保険金 — +595百万円 (前年同期比 +28.3%)
営業費及び一般管理費	2,233	2,558	+14.6%	諸手数料及び集金費 — +206百万円 (前年同期比 +37.4%)
その他経常費用	6	1	▲74.7%	
<b>経常利益</b>	<b>163</b>	<b>213</b>	<b>+31.0%</b>	
<b>特別損失</b>	<b>256</b>	<b>1</b>	<b>▲99.4%</b>	前年同期は基幹システム開発遅延に伴う特別損失(256百万円)を計上
<b>税引前中間純利益</b>	<b>▲93</b>	<b>212</b>	—	
<b>法人税等合計額</b>	<b>123</b>	<b>▲426</b>	—	税効果会計の区分変更により、異常危険準備金に対する繰延税金資産を計上
<b>中間純利益</b>	<b>▲217</b>	<b>638</b>	—	

## 主な勘定項目の増減理由

保有契約件数の拡大に伴い順調に増加

有価証券売却益 — ▲19百万円  
利息配当金収入 — +13百万円

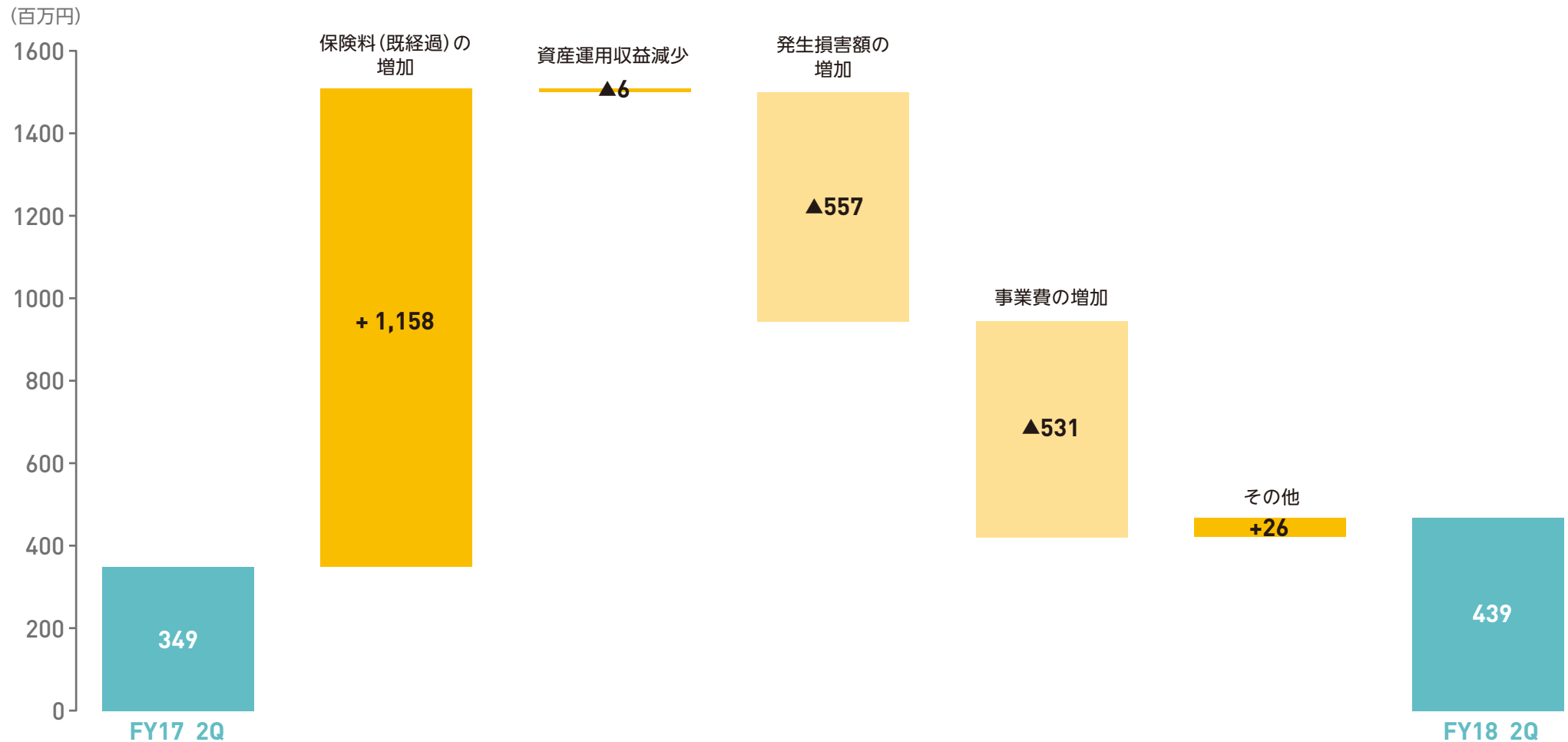
正味支払保険金 — +595百万円  
(前年同期比 +28.3%)

諸手数料及び集金費 — +206百万円  
(前年同期比 +37.4%)

前年同期は基幹システム開発遅延に伴う特別損失(256百万円)を計上

税効果会計の区分変更により、異常危険準備金に対する繰延税金資産を計上

保険金支払や事業費が増加したものの、それを上回る保険料収入の増加があったため、調整後経常利益は前年同期から90百万円の増加





J-GAAPベースの

業績



## 要約損益計算書 (J-GAAP:初年度収支残方式)

(単位：百万円)

	FY17 2Q	FY18 2Q	前年同期比
経常収益	5,841	7,089	+21.4%
保険引受収益	5,804	7,036	+21.2%
資産運用収益	33	27	▲17.8%
その他経常収益	3	24	+645.2%
経常費用	5,614	6,888	+22.7%
保険引受費用	<b>3,374</b>	<b>4,328</b>	<b>+28.3%</b>
営業費及び一般管理費	2,233	2,558	+14.6%
その他経常費用	6	1	▲74.7%
経常利益	<b>226</b>	<b>200</b>	<b>▲11.2%</b>
特別損失	256	1	▲99.4%
税引前中間純利益	<b>▲30</b>	<b>199</b>	—
法人税等合計額	<b>101</b>	<b>▲429</b>	—
中間純利益	<b>▲131</b>	<b>629</b>	—

※太字は、Non-GAAP と数字が異なる部分

# 要約貸借対照表 (J-GAAP: 初年度収支残方式)

(単位: 百万円)

	FY17	FY18 2Q	前年度末比
<b>資産合計</b>	<b>9,250</b>	<b>12,260</b>	<b>+32.5%</b>
現金及び預貯金	4,666	5,750	+23.2%
有価証券	2,160	2,731	+26.4%
繰延税金資産	84	653	+677.0%
その他資産	2,339	3,125	+33.6%
<b>負債合計</b>	<b>6,347</b>	<b>7,199</b>	<b>+13.4%</b>
保険契約準備金	5,560	6,222	+11.9%
うち支払備金	794	904	+13.8%
うち責任準備金	4,766	5,318	+11.6%
その他負債	786	976	+24.3%
<b>純資産</b>	<b>2,902</b>	<b>5,060</b>	<b>+74.3%</b>
資本金	3,315	4,078	+23.0%

## 主な勘定項目の増減理由

資産運用の拡大に伴う増加

税効果会計の区分変更に伴い、異常危険準備金に係る繰延税金資産を計上

### 主な増加要因

ソフトウェア仮勘定 +376百万円、  
未収保険料 +112百万円、未収金 +77百万円

保有契約件数の拡大に伴う増加

普通責任準備金 — +326百万円  
異常危険準備金 — +225百万円

IPOに伴う増資に伴い、1,449百万円を調達



# APPENDIX



## 利益の推移

(単位：百万円)

		FY15	FY16	FY17
Non-GAAP	A) 調整後経常利益(未経過)(=B+C)	▲76	668	835
	B) 経常利益(未経過)	▲336*	345	444
	C) 異常危険準備金影響額	260	322	391

\* 未経過保険料の算定方法を純保険料を基礎とした 1/24 法(月央基準)から、営業保険料を基礎とした 1/12 法(月末基準)に変更

- 当社は、経営者が意思決定する際に使用する社内指標(Non-GAAP: 未経過保険料方式)と日本基準(J-GAAP: 初年度収支残方式)に基づく指標の双方で経営成績を開示\*\*
- 経営管理用の利益指標として、調整後経常利益(=未経過保険料方式の経常利益±異常危険準備金\*\*\*影響額)を設定
- 異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、事業年度ごとに収入保険料に3.2%を乗じた金額を責任準備金として負債計上する必要がある(保険業法施行規則第70条1項2号)\*\*\*
- 今後も業績予想は「Non-GAAP: 未経過保険料方式」のみで開示

\*\* 上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社は当社以外は存在しない

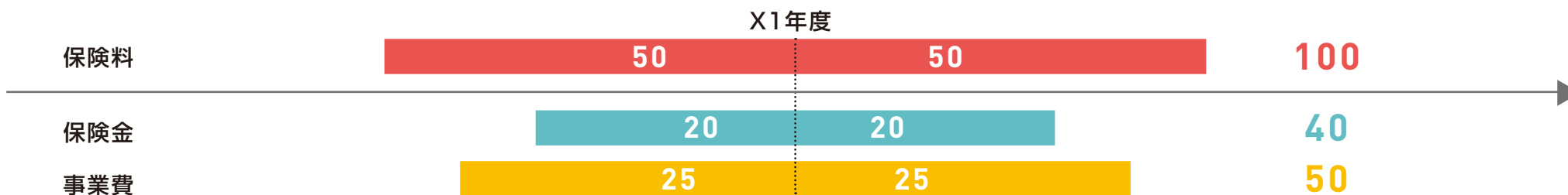
\*\*\* 当社の損害率が大蔵省告示第232号第2条の別表で記載されている基準損害率50%を下回るため

# 【参考】利益と保険会計の特徴について

- ・ 損害保険会社は、普通責任準備金として未経過保険料残高と初年度収支残高の大きい方を負債計上する必要がある（保険業法施行規則第 70 条 1 項 1 号）
- ・ 当社は、初年度収支残高が未経過保険料残高を上回っているため、会計上初年度収支残方式を使用も、経営管理上は、発生主義に即した未経過保険料方式を使用

## 初年度収支残方式と未経過保険料方式

(前提) ● 期中に一時払で 100 の入金、うち X1 年度末での未経過保険料 50  
● 保険金、事業費はそれぞれ下図の通り



### 初年度収支残方式

	X1年度	X2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲45
準備金	55	▲55
利益	0	10

初年度の利益は 0

### 未経過保険料方式

	X1年度	X2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲45
準備金	50	▲50
利益	5	5

発生主義による利益



## ■将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。
- これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

本資料及び当社IRに関するお問合せ先

アイペット損害保険株式会社 財務経理部

TEL: 03-5574-8615 E-mail: IR@ipet-ins.com